

アフリカの食糧自給率向上に向けて

農業・農産業局ニュースレター

2016年第1セメスター

編集部より

アフリカ開発銀行は、5つの最優先分野「ハイ・ファイブ (High 5s)」の一環として、「アフリカの食糧増産：アフリカの農業改革のための戦略 (2016～2025年)」と称してアフリカ農業の構造改革に向けた大陸全域の戦略策定を支援しています。



我々、農業・農産業局 (OSAN) は、アフリカ農業改革戦略 (Strategy for African Agricultural Transformation (ATA)) の策定と実施において中心的な役割を果たしていると自負しています。

この戦略は当行にとり最も重要な戦略的優先事項のひとつであり、目標達成に向け任務が遂行されるべく、OSAN は熱意を持って、また、意欲的に支援しています。

このニュースレターで、事業および特別イニシアティブのポートフォリオについて簡潔に紹介し、また、その業績をたどることができるのは喜ばしい限りです。

この2016年第1セメスターの初版では、イノベーションを主要テーマとしています。とりわけ、リベリアの革新的な農業金融商品やコンゴ民主共和国における包摂的かつ持続可能な展示農場の成果について振り返ります。

農業・農産業局長
チジ・オジュク (Chiji Ojukwu)

「アフリカ食糧増産」戦略は、アフリカ農業の構造改革に向けイノベーション革新を目指す

農業・農産業局 (OSAN) により策定された「アフリカ食糧増産」戦略の一部である「アフリカ農業改革のための技術 (TAAT)」という旗艦イニシアティブでは、農業において技術が果たす役割に関して取り組んでいます。

報サービス分野への情報通信技術の導入により、包摂的な形で農業バリューチェーンを近代化する新たな方策が可能となりました。また、女性や若者といった冷遇されることの多い集団も受益することになります。

TAAT の目的は、アフリカ大陸の農業改革に不可欠な生産性の向上に向け、実証済みの農業技術を広めることにあります。これにより、アフリカは自給が可能となるだけでなく、農業が長期的な成長および繁栄の共有に貢献することになるでしょう。

「農業の近代化および商業化は、アフリカとその人々、特に農村部貧困層の暮らしを変える鍵となる」と、アキンウミ・アデシナ (Akinwumi Adesina) AfDB 総裁は、2016年4月12日～14日に国際熱帯農業研究所 (IITA) で開催された「技術とアフリカの農業改革」ワークショップで述べました。

新しい技術、とりわけ農業や金融および情

2ページに続く



© IFPRI / Mitchell Meher

目次

AfDB はアフリカの農業改革のための多様なイノベーションに注目するp.2

ENABLE ユース・プログラムに関する計画ワークショップp.4

短信：

農業成長拠点および農産加工区が果たす役割に関するワークショップp.4

2016年 AfDB 年次総会で「アフリカ食糧増産」戦略を発表p.4

AfDB はアフリカ全域を対象として「アフリカ食糧増産」戦略に着手へp.4

「アフリカ食糧増産」戦略とは、アフリカの農業をグローバル競争力のある包摂的なビジネス志向のセクターへと変え、富の創出、有給の雇用創出および生活の質の向上をはかるための取り組みのことで、また、アフリカ全域およびその他地域において成功している既存のイニシアティブをスケールアップさせることも追求しています。

「アフリカ食糧増産」は次の4本柱から成ります。

- アフリカにおける極度の貧困の根絶に寄与すること
- アフリカにおける飢餓および栄養不良を終わらせること
- アフリカを食料純輸出国にすること
- アフリカをグローバル・バリューチェーンの頂点に押し上げること

1,000億米ドルの市場規模

上記目標に沿って、2025年までに3億2,000万人が栄養不良を克服すべきです。また、1億3,000万人が極度の貧困から脱することを目指します。アフリカは、1,100億米ドル規模の輸入代替をはかり農産物の純輸出国となるべきです。最後に、アフリカは主要農産加工品について市場のシェアを倍増します。

アフリカは、アグリビジネスの潜在能力を発揮させ、上記目標を達成することで、2025年までに市場規模を年間1,000億米ドル以上に拡大することが可能となります。そのうち、現時点で想定されるバリューチェーンの改善で2025年までに、850億米ドルの収入機会が見込まれることを前提としています。

「アフリカ食糧増産」の実現は、次の7要因にかかっています。

- 生産性の向上
- 付加価値の増大
- インフラ（ハードおよびソフト）への投資増加
- 農業金融の拡大
- アグリビジネス環境の整備
- 包摂性、持続可能性および栄養の向上
- パートナースhip

この7要因は、一連の旗艦イニシアティブ（合計15件）に息吹を吹き込むことを目的としています。TAATプログラムは、「実現要因1：生産性の向上」に由来する多数のイニシアティブのひとつです。

AfDBはアフリカの農業を改革するための多様なイノベーションに注目する

科学技術はかつてないほど、農業セクターを変容させています。最新のバイオテクノロジーからドローンや水および養分の一元的な管理システムの利用まで、技術とイノベーションは農業を「頭脳・労働」に変えています。

アフリカは科学技術への投資を増やし、農業の効率性と競争力を高め、そして経済の多様化を迅速にはかる必要があります。AfDBおよびそのパートナーにより着手されたイニシアティブの中には、10年以内にアフリカの何百万人もの農家に普及させるべく農業技術のスケールアップに重点が置かれているものもあります。

リベリアのトディ地区における金融包摂に向けた道筋

リベリアの農家約15万人は、政府がAfDBの支援を受けて着手したリベリア農業改革計画（LATA）により、金融および革新的技術から受益することになっています。同国成人の10%はモバイル口座を持っており、政府はAfDBの支援を受けてこの数字を倍増できると期待しています。

このプログラムでは、アフリカのアグリビジネスにおいておそらく最も革新的なデジタルプラットフォームを提供するセルラント・ナイジェリア社の技術をテコとして活用します。農業投入財（肥料および種子）の受取人と金融機関が電子マネーにより結



© Techman / Entrepreneurship in Africa

び付けられます。この新技術により、既存の農場を探し出し、特有のデータベースで経営者と一対一で結び付けられます。この計量経済モデルでは、収集された情報（土地の面積、作物の種類、需要）を基に必要な投入財の支援を予測できます。



© Techman / Entrepreneurship in Africa

AfDB はアフリカの農業を改革するための多様なイノベーションに注目する



© AgrifWestAfrica

実施中の「小規模農家農業生産性強化及び商業化」(SAPEC) プロジェクトでは、2016年作付期においてリベリアの農家 15 万人が受益者になると計画されています。自分の村に居ながらにして電子財布をみて、肥料の支援、関連データおよびアラートを直接受けることができ、こうした農民は金融システムにリーチできるようになり、存在感を見せられます。

これに並行して、同プロジェクトでは政府とリスク共有に関する合意を結ぶことで、農業ディーラーが商業銀行から資金調達できるよう支援するなど中小企業向け融資も促進しています。貸出金利は数%下がる見込みで、マイクロクレジットにアクセスしやすくなります。

これは重要なステップで、農業保険、マイクロクレジットおよび貯蓄といったより幅広い金融サービスへとつながる機会が広がります。

コンゴ民主共和国における包括的で持続可能な農業の展示農場

同国のマヨンベ森林地帯のルキ生物圏保護区 (RBL) を拠点とした包括的な REDD プラス ルキパイロットプロジェクト (CBFF-Luki) は、コンゴ盆地における貧困削減と同時に、天然林の伐採および劣化の削減に寄与することが全体目的です。

このプロジェクトの個別の目的は、森林面積、森林再生およびサバンナを拡大し森林減少を抑止すること、RBL の現地住民の生活条件を改善し、現地のガバナンスシ

テムを確立すること、そして REDD プラスの国家戦略の策定に寄与し、炭素市場の便益および生態系サービスに対する支払を受給できるようにすることです。

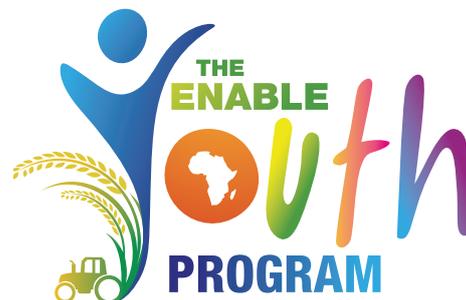
こうした目標を達成するため、このプロジェクトでは、持続可能な開発保護区およびパイロット的な展示農場といった統合管理システムの実施を含め、いくつかの現地戦略を定めています。展示農場では、統合的で持続可能な定着農業を実践することとしています。

プロジェクトでは、全部で 30 の展示農場を実施しており、焼畑農業や農産物の低い生産性といった根強い問題を解決し、ひいてはルキ生物圏保護区周辺の貧困問題への対処を支援します。

展示農場の目的は、コミュニティレベルで持続可能かつ統合的な農業生産のモデルとすることにあります。この活動の将来ビジョンは、農家を定着させるとともに、持続可能な農業慣行を抑止し、また、持続可能な開発および貧困撲滅を促進するシステムを継続していくことにあります。

スーダンの ENABLE ユース・プログラム

最近の国別訪問・対話により、スーダンは ENABLE ユース・プログラムへの参加



に高い関心を抱いている国のひとつであることが判明し、AfDB の支援を要請しました。これに対し、OSAN は移行支援ファシリティ (AfDB のイニシアティブのひとつ) から 850 万米ドルを確保し、スーダンの国別 ENABLE ユース・プログラムの立案および策定を支援しています。

AfDB は 2016 年 3 月 20 日～24 日、スーダンに対話ミッションを派遣しました。同ミッションは政府機関および開発パートナーを含む他のステークホルダーとの貴重な議論を通じ、スーダンの ENABLE ユース・プロジェクトの策定とパイロットプロジェクトに向けた下準備をしました。

4ページに続く



© @abnet_katassie

AfDB はアフリカ全域を対象として「アフリカ食糧増産」戦略に着手へ

アフリカ開発銀行グループは、域内全域を対象とした「アフリカの食糧増産：アフリカ農業の改革のための戦略（2016～2025年）」に着手します。その皮切りに、2016年11月8日～24日、5カ国で戦略を紹介する地域説明会を開催します。これは実施および参画促進を目的としたワークショップで、ザンビア（ルサカ、11月8日）、カメルーン（ヤウンデ、11月11日）、チュニジア（チュニス、11月17日）、セネガル（ダカール、11月24日）およびウガンダ（カンパラ、11月24日）で開催されます。

3ページからの続き

カメルーン：非木材林産物の経済価値を高めるための新ビジョン

このプロジェクトは、中部アフリカ全般、特にブルンジ、チャド、赤道ギニア、ルワンダおよびサントメ・プリンシペを対象に、零細森林企業の育成支援を含め、現地住民が非木材林産物に付加価値をつけることで貧困緩和と持続可能な森林管理に寄与します。

非木材林産物（NWFP）は、中部アフリカ諸国で1980年代半の経済危機に直面した際に重要性が高まりました。当時、カカオとコーヒーの国際市場価格が下落し、農家はNWFPの採取を増やし、一部を自家消費に、大部分を販売することで所得源を多様化させる必要に迫られたからです。

1994年1月にCFAフラン切り下げにより医薬品の価格が上昇したため、農村部および都市部の住民は、一般的な病気を治すために薬用植物の利用へと切り替えました。



© Wikimedia Commons



「アフリカ食糧増産」戦略を地域分散型で着手する目的は、現地の人々に自分たちの環境に直接関連する戦略を選び参画してもらうことにあります。

このワークショップの目玉は、著名な来賓による基調講演、戦略の発表、現地ステークホルダーを主役とするパネルディスカッションとなります。これらにより、各国において最も効果の高いAfDB農業プロジェクトを探り出す機会が生まれます。

このイベントでは広範囲にわたる参加者が一堂に会します。具体的には、AfDB職員、現地の公共および民間両部門パートナー、女性団体および若者の代表、開発パートナーおよびメディアなどです。

2016年 AfDB 年次総会で「アフリカ食糧増産」戦略を発表

AfDBは2016年5月24日、ザンビアのルサカで開催した年次総会に合わせて、アフリカ農業改革戦略を発表しました。これは特に、農業セクターの改革と零細農家および若者のエンパワメントを目指しており、（7実現要因を反映した）意欲的な15項目計画に取り組むことでアフリカにおける農業セクターを改善していきます。

AfDBのチジ・オジュク（Chiji Ojukwu）農業・農産局長は、農業は依然としてアフリカの主要な所得源であるが、潜在能力が発揮されないために貧困が長引き、食料安全保障が悪化していると述べました。オジュク局長は、具体的な戦略として、生産性の向上、生産増の実現、インフラ（ハードおよびソフト）への投資増加を挙げました。

短信

農業成長拠点および農産加工区が果たす役割に関するワークショップ

AfDBは2016年3月22～23日、コートジボワールのアビジャンで「アフリカの自給と産業化に果たす農業成長拠点および農産加工区（APZ）の役割」と題するワークショップを開催しました。その中で参加者は次の4つの提言を出しました。農業成長拠点および農産加工区のネットワーク構築への支援、脆弱な状況に直面している諸国に対する投資の促進、農業成長拠点の構築に向けた戦略的ガイドラインを策定し、関連した技術支援を行うこと、農業成長拠点の開発とその他のAfDB支援イニシアティブ（農業バリューチェーン、若者の雇用、商品取引所など）とを統合すること、です。

ENABLE ユース・プログラムに関する計画ワークショップ

AfDBはIITAと共同で、2016年4月21日～22日、ナイジェリアのアブジャにおいてENABLE（アグリビジネスによる雇用創出に向けたエンパワメント）ユース・プログラムの計画ワークショップを開催しました。30カ国余りから200人の参加者が集まり、アリコ・ダンゴテ（Aliko Dangote）やトニー・エルメル（Tony Elumelu）といった民間起業家のほか、アフリカ10カ国の農業相および若者担当相などといった著名な来賓が講演しました。

アキンウミ・アデシナ（Akinwumi Adesina）AfDB総裁も、パネルディスカッションに参加し、アフリカは多様化の夢を実現したいのであれば、農業を異なる観点から見直す必要があると述べました。また、農業には経済を安定化する潜在能力があり、ビジネスとして捉えられるべきだとも述べました。

「私たちは潜在能力を発揮しないまま待つことはできません。思考様式を変え、農業はビジネスであると認識する必要があります。農業に従事する人々はなぜ貧しいのでしょうか？これを変えなければなりません。農業はビジネスであり、富と雇用を創出する源泉なのです」とアデシナ総裁は述べました。

発行担当局長：

チジ・オジュク（Chiji Ojukwu）
c.ojukwu@afdb.org

コーディネータ：

ベネディクト・カヌ（Benedict Kanu）
b.kanu@afdb.org

編集主任：

ダミアン・イヘディオハ（Damian Ihedioha）
d.ihedioha@afdb.org

編集：マリーアンジュ・ヌルンビー

（Marie-Ange Nouroumy）
m.nouroumy@afdb.org

ニュースデスク編集：

チャーキ・チャヘッド（Chawki Chahed）
c.chahed@afdb.org